

# 結果を表す動補構造の記号化と意味機能

秋 山 淳

## 目 次

1. はじめに
2. 先行研究の問題点—秋山淳 (1998)
3. VR が記号化しているもの—認知言語学的アプローチ
4. VR 他動詞文 (i)
5. VR 他動詞文 (ii)
6. おわりに

## 1. はじめに

中国語では、結果構文は次のような文で表される：

- (1) 武松打死老虎。  
「武松は虎をなぐり殺した」
- (2) 胖子坐塌了椅子。  
「太っちょが座って椅子をこわした」

この二つの文は動詞+結果補語 (以下 VR) の動補構造を用いた文であり、それぞれの文の主語の動作を表す“打”「殴る」と“坐”「座る」が原因となり、目的語の結果状態を表す“死”と“塌”「へこむ」を引き起こしたこと、いわゆる使役事象を表す文である。ところが、この VR を用いた文は必ずしも使役事象を表す訳ではない。

- (3) 我吃完饭了。  
「私はご飯を食べ終えた」
- (4) 刚才我看见他了。  
「今しがた彼を見かけた」

(3) は主語の動作を表す“吃”「食べる」に対し、補語の“完”「終わる」は“吃”という行為の終了を表すアスペクトであり、(4) は、主語の知覚的行為を表す“看”「見る」に対し、補語である“见”は“看”という行為が達成されたことを表すものであり、何れも主語の行為が目的語の結果状態を引き起こすという使役事象を表す訳ではない。では、なぜ、同じ VR を用いた構文が使役事象を表したり、非使役事象を表したりするのだろうか。本稿ではこのよう

な問題意識を手掛かりとし、以下の二点について認知言語学的な観点から明らかにしようと試みるものである。

(i) 動詞+結果補語 (以下 VR) の動補構造を用いた“S-VR-O”の他動詞文において、VR は何を記号化したものなのか？

(ii) それが“S-VR-O”が表す意味にどのように作用するのか？

## 2. 先行研究の問題点—秋山淳 (1998)

中国語の VR を用いた構文に関する先行研究に今井敬子 1985、望月圭子 1990、山口直人 1991、中川裕三 1992a,1992b、秋山淳 1998、石村広 2000 などがある。この中で、拙稿秋山淳 1998 では語彙概念構造の観点から、VR 構文が使役義を獲得する仕組みについて分析したものである。ここで拙稿の問題点について、見ていくことにする。

秋山 (1998) では、以下の VR 他動詞文について、影山太郎 (1996) の語彙概念構造 (lexical conceptual structure; 以下 LCS) を用いて分析を行った。<sup>1)</sup>

- (5) 张三推开了门。(V: 他動詞、R: 非対格動詞)  
「張三はドアを押し開けた」
- (6) 张三打死了蟑螂。(V: 他動詞、R: 非対格動詞)  
「張三はゴキブリを叩き殺した」
- (7) 张三笑醒了李四。(V: 非能格動詞、R: 非対格動詞) [(意識)「張三の笑いが李四を起こした」]
- (8) 张三哭湿了手绢。(V: 非能格動詞、R: 非対格動詞)「張三はハンカチを泣き濡らした」
- (9) 小王冻病了孩子。(V: 非対格動詞、R: 非対格動詞)「王さんは子供を凍えて病気にした」

(5) ~ (9) を LCS で表すと次のようになる：

- (10) [张三推门] CAUSE [门开] (= (5))
- (11) [张三打蟑螂] CAUSE [蟑螂死] (= (6))

- (12) [张三笑] CAUSE [李四醒] (= (7))  
 (13) [张三哭] CAUSE [李四湿] (= (8))  
 (14) [小王 (V)] CAUSE [[孩子冻 and 病]] (= (9))

(5) ~ (9) は主語の目的語に対する何らかの行為が目的語の状態を変化させたという意味に解釈されるものであり、それを (10) ~ (13) の LCS が表している。この LCS は上位事象 (原因) が下位事象 (結果) を引き起こすという意味に解釈されることから、LCS は [上位事象] CAUSE [下位事象] という形式を持つと考える。また、(9) は主語の何らかの行為が目的語を“冻”から“病”へ状態変化させたと解釈されることが可能なことから主語自体が原因主となり、下位事象を引き起こすと解釈され、(10) ~ (13) と同様の LCS を持つと想定される。しかし、前節で述べたように、全ての VR 他動詞文が使役事象を表しているとは限らない。

(15) 张三学会了钢琴。

「張三はピアノをマスターした」

(16) 我们学到第十一课了。

「私たちは第 11 課まで学んだ」

(17) 这时父亲问他：“洗完了？”

「その時、父親は彼に尋ねた『洗い終わったか?』」

(18) 刚才我看见他了。

「今し方彼を見かけた」

このことから、VR 他動詞文が使役事象と非使役事象の何れも表せるということは、VR が使役の意味を記号化していると考えすることはできない。では、いったい何を記号化しているのであろうか。

### 3. VR が記号化しているもの—認知言語学的アプローチ

VR が何を記号化しているものかについての分析に、井上優 (2012) がある。井上 (2012) では、「変化」という概念を導入し、それを (i) 自律的なもの (SR 了) と、(ii) 非自律的なもの (SVR 了) の二種類が存在すると主張する。<sup>2)</sup> (i) ではいわゆるモノや人が自然に変化するとされるものである。

(19) 衣服脏了。「服が汚れた」

(20) 他的病好了。「彼の病気はよくなった」

(19) の“衣服”は自然に汚れたことを表し、(20) の“他的病”も自然によくなったことを表している。<sup>3)</sup>

ところが自然に変化したと考えられない場合もある。

(21) ?? 衣服干净了。「服がきれいになった」

(22) ?? 他的自行车好了。「彼の自転車はよくなった」

(21) の“衣服”は自然にきれい (清潔) になるとは通常考えられないし、(22) の壊れていると考えられている“自行车”も自然に治るとは考えられないので非文になる。したがって、(21) と (22) は次のように言い換えれば、文は成立する。

(23) 衣服洗干净了。

「服は洗ってきれいになった」

(24) 他的自行车修好了。

「彼の自転車は修理してよくなった」

つまり、(23) と (24) は (ii) タイプの変化である。これらの変化の概念を井上 (2012, p7) では次のようにとらえている：

(25) 変 化  
(BECOME)

→

|     |     |
|-----|-----|
| 変化前 | 変化後 |
|-----|-----|

(26) について、中国語の動詞には時間の要素が内包されていないために、V と R を組み合わせて時間の流れを作る形で変化を叙述する。たとえば、“洗干净了”では (27) のようになる (井上 2012, pp7-8)。また、V と R を並べて変化を叙述するという形式を認知言語学の観点から説明するとするならば、(28) のように、V は R の参照点になると考えることができる (木村 2014, Langacker 2000)

(27) “洗干净了”

変 化  
(BECOME)

→

|     |      |
|-----|------|
| “洗” | “干净” |
|-----|------|

(28)

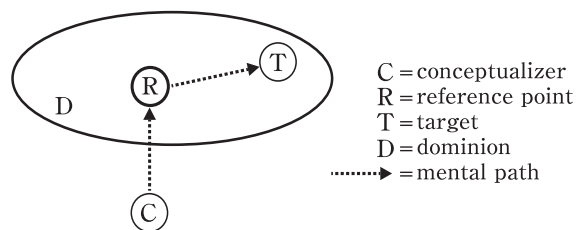


図 1

(28) は次のような説明になる（辻幸夫編 2013, pp132-133）：

（i）第一段階では、概念主体（概念者：C）は、アクセスのしやすい事物である参照点（R）と心的接触（点線矢印）をする。

（ii）第二段階では、参照点を経由して、支配領域（D）内に存在する、アクセスの難しい事物であるターゲット（T）と心的接触を果たす。

上記の（i）と（ii）に基づいて、(23) の“衣服洗干净了”を説明するならば、Vである“洗”とRである“干净”を並べることにより、“洗”から“干净”への心的接触が時間の流れを推測（時間的隣接性）させ、「変化」の解釈を引き起こす。

またVとRを隣接させることにより、“洗”は変化の開始点に、“干净”は変化の終了点に解釈されることができると考えることもできる。これは、「起点・経路・着点スキーマ」の「起点」が“洗”、“干净”は「着点」を写像し、経路は背景化されたものであるとみることができ（辻幸夫編 2013, p57）：

(29) 起点・経路・着点スキーマ（John1987）

<経路>

□————→□

（起点） （着点）

(30) “洗” “干净”

V R

「参照点」「ターゲット」

「起点」 「着点」

即ち、起点に“洗”、着点に“干净”が写像されることにより、それぞれ、原因と結果に写像されることができると考えることも可能である。この（30）の考え方に基き、次節では具体的な例についてみていくことにする。

#### 4. VR 他動詞文（i）

(31) 武松打死了老虎。

「武松が虎を殴り殺した」

(32) 胖子坐塌了椅子。

「太っちょが座って椅子を壊した」

(33) 小王跳塌了房子。

「王さんは跳びはねて部屋を壊した」

(34) 为此他们先打死了我哥哥。

「このために、彼らは先ず既に私の兄を殴り殺し

た」

(35) 他向我表示说：我是中国人，我爸还在广东，我的心还在中国，我一定要回中国。谈话中他哭湿了我的两条手绢。

「彼は私に次のように述べた：私は中国人です。父はまだ広東にいますので、私の心はまだ中国にあります。必ず中国に帰ります。話の最中に彼は私の二枚のハンカチを泣きぬらした」

(31)～(34)の“打”「殴る」、「坐」「座る」、「跳」「跳ねる」は主語の行為を表し、その結果、目的語が、“死”や“塌”「くぼむ・倒れる」という状態変化を引き起こすことが述べられたものであると解釈される。(35)の“哭”は自動詞であり、主語の行為を表し、目的語の“两条手绢”「二枚のハンカチ」は涙を拭う時に使うものと我々の日常の経験から容易に理解されるので、主語の“哭”という行為が目的語を“湿”という状態に変化させたと解釈される。つまり、(31)～(35)は主語（動作主）の行為（上位事象）が、目的語（対象/受動者）の状態変化を引き起こす（下位事象）という使役事象であるとみなすことができる。ただし、全てのVR他動詞文が使役事象に解釈されるという訳ではない。次節で使役事象に解釈されないVR他動詞文を見ていく。

#### 5. VR 他動詞文（ii）

(36) 孩子听烦了故事。

「子供は物語を聞き飽きた」

(37) 妈妈看累了小说。

「お母さんは小説を読み疲れた」

(38) 外面没有人玩我们就在自己家里玩，院子虽然很小，但也足够我们姐弟五个闹腾。我们踢累了毽子就砸沙包，砸够了沙包就跳绳，玩厌了跳绳就捉迷藏。这样一圈玩下来，一天的时间也就折腾的差不多了。【流年往事；龙华会里客的博文大本营】

「外には遊んでいる人がいないので私たちは家で遊んだ。庭は小さいけれども、私たち5人兄弟が騒ぐには十分であった。毛羽を蹴り疲れるとサンドバックを叩き、十分に叩くと縄跳びをし、縄跳びに遊び飽きるとかくれんぼをした。このように一通り遊ぶと、一日の時間も殆どそうして過ごした」

(39) 阿布拉揪累了猫头鹰的毛，看天看地就是不去看自己的这一对父母。太丢人了……尤其是他的父亲，每天把欺负小伊莲当做必做的事情，难怪小伊莲经常张口就咬他呢……【郁闷的阿布】

「アブラはミミズクの毛をつかみ疲れたので、自分の両親を面倒見に行かなかった。全くの恥かきだ…とりわけ彼の父親は、毎日エイリンをいじめることを必ずすべきことと見なしている。どおりでエイリンがよく口を開いて彼にかみついている」

(40) 听累了摇滚～欣赏下绘画吧。。Jan Van Mechelen【摇滚吧】

「ロックを聴き疲れたら～絵画を鑑賞しましょう」

(41) 画累了写实派的画，偶尔画画小清新也是不错的～多肉手绘【豆瓣小组】

「写实派の絵を描き疲れたら、たまには新鮮なものを描いてみるのも悪くないよ」

(36)～(41)はVR他動詞文であり、Vは主語の行為や知覚を表すが、Rは目的語の状態変化を表すのではなく、主語のネガティブな心理的な感覚を述べたものであり(熊学亮・魏薇 2014)、主語は経験者(experiencer)、目的語は被経験体(experienced)に解釈される。(Friedrich Ungerer・Hans-Jörg Schmid 2006)。

一方、経験者が目的語であり、被経験体が主語のVR他動詞文では、使役事象を表すことができる。

(42) 故事听烦了孩子。

「子供は物語を聞き飽きた」

(43) 小说看累了妈妈。

「小説が母を読み疲れさせた」

(44) 今年江苏电网招聘真是等累我了。【国家电网吧】

「今年江蘇電力ネットワークの募集に私は待ち疲れた」

(45) 久已忘却的疼痛又一次压累了斯蒂尔的胸口。这种痛，仿佛与流热的时光融合在了一起。

「とくに忘れていた痛みがまた一度スティーラの胸を押さえて疲れさせた。この種の痛みは、あたかも熱を伝える時と融合したかのようだった」

(46) 一阵寒风吹过，吹寒了我的心，更吹累了我的心。

心。我慢慢的，慢慢的睡着了……“主人，看你很心疼吧，让我给你一个愿望吧！”【第10篇 请不要过去，夏天 1000 字；写夏天的作文 300 字】

「ひとしきり寒い風が吹き、私を失望させ、いっそう疲れさせた。私はゆっくりと眠りについたら……『主人、かわいそうに見えるから、私に一つ願いを叶えさせて下さい』」

(47) 在一天天的焦虑等待中，他开始明白为什么那次她会因为他的一次迟到而泪如雨下，等待中的担心和焦灼，无法控制的胡思乱想，揪累了她的心，他才懂得傻丫头是多么的在乎他!!! 有多辛苦，额头上的汗珠凝结里她觉得幸福!!!【李洛&骆 木殷-城市里一则未完成的故事】

「一日一日やきもきして待つ中、彼はなぜあの時に彼女が彼の一度の遅刻で激しく涙を流し、待っている間に心配したり、気をもんだりして、制御できない妄想が彼女の心を(掴んで)疲れさせたことを理解し始めた、彼はようやくおぼかさんが彼のことをこんなにも気にかけていることがわかった」

(42)～(47)のVR他動詞文は、被経験体主語により目的語が何らかの心理的变化などが引き起こされたことを表す。これらの例では、被経験体主語は人ではなく何らかの出来事や自然力などが主語になり、その結果、目的語である人または人の身体などが心理的な(または身体的な)変化を経験するという使役事象に解釈される。つまり、同じVとRの組み合わせであっても、主語や目的語の内容により、使役事象に解釈されたり、非使役事象に解釈されたりするのである。どのような主語や目的語が、VR他動詞文の成立を決めるのか、または使役事象や非使役事象に解釈されるのかは、中国語母語話者の捉え方によって決定されると考えられる。<sup>4)</sup>

(48) \*教练跑累了李四了。

「コーチは李四を走り疲れさせた」

(49) 训练员跑累了那匹马了。

「指導員はその馬を走り疲れさせた」

## 5. まとめ

(i) VRはVが参照点でRがターゲットであり、



V と R と並べることにより、概念者が時間の流れを推測し（隣接性）、変化に解釈する（鈴木 2004, 井上 2012, Suzuki 2014）。

(ii) VR は発生順に並べられていることから、起点・経路・着点スキーマの V は起点を、R は着点を写像し、経路が背景化されていると考えられる。また、V や R の種類、コンテキストなどにより、「起点」が「原因」に、「着点」が「結果」に解釈される。

(iii) VR 他動詞文 (S-VR-O) において、VR が表す変化を被る対象が主語なのか、目的語なのかは、V や R に現れる動詞・形容詞の意味、また具体的な主語や目的語の種類により決定される。また、同じ VR でも (48) と (49) のように主語や目的語が異なることが文の成立を左右する。即ち母語話者の捉え方が決定する。

## 6. おわりに

VR が用いられた構文には他動詞文のほかに、(50) のような存現文もある。また結果構文には VR 他動詞文だけでなく、“V 得”を用いた得字句も存在する。

(50) “上个月撞死三十七个人”我看着路口竖立的交通事故公告牌说。

「私は交差点に立てかけてある『先月 37 人が事故死している』という交通事故の公告板を見ていた。」

(51) 他们叫得我们快发疯了。<sup>5)</sup>

(50) の VR は VR 他動詞文と同様な分析を行えるのか、また (51) の V 得は何を記号化したものなのか、これらの分析が今後の課題と考えている。

### <注>

- 1) 動詞が表す概念的な意味を抽象的な述語概念で表示した構造のこと（影山太郎 1996, p. 47）。影山（1996）では行為を ACT、使役を CAUSE、変化を BECOME、状態を BE という述語概念で表わしている。たとえば、(5) 张三推开了门的 LCS は
- |     |     |    |    |       |    |    |    |    |
|-----|-----|----|----|-------|----|----|----|----|
| [ x | ACT | on | y] | CAUSE | [y | BE | at | z] |
|     |     |    |    |       |    |    |    |    |
| 张三  | 推   | 门  |    |       | 门  | 开  |    |    |
- 上位事象の“张三推门”は [X ACT on y] に相当し、“门开了”は【BECOME [ y BE at z]】に相当し、上位事象が下位事象を引き起こすことを CAUSE で

示している

- 2) 井上（2012）のいう（i）自律的变化は単純事象であり、（ii）非自律的变化は複合事象に相当すると考えられる（Wolff 2003）
- 3) 例文は何れも井上（2012）からの用例である。“他的病好了”という表現では風邪など比較的軽い病気が推測されるが、入院などしなければならないような重い病気の場合からの回復は、やはり“他的病治好了”と表現される。
- 4) 沈家焯（2004）からの用例
- 5) 黄正德（2006）からの用例。

### <参考文献>

- Friedrich Ungerer and Hans-Jörg Schmid. 2006. An Introduction to Cognitive Linguistics. Second Edition Pearson Education limited.
- Huang James 2006. Resultatives and Unaccusatives :a Parametric View. 『中国語学』 253 号 p.1-43
- Langacker, Ronald W. 2000. Grammar and Conceptualization Mouton de Gruyter Berlin/New York
- Langacker, Ronald W. 2008. Cognitive Grammar-A Basic Introduction Oxford University Press（山梨正明監訳 2001 『認知文法序説』 研究社）
- Suzuki Takeo 2014 A Cross-Linguistic Exploration into the Semantics of English, Japanese and Mandarin Resultatives. GendaiTosho.
- Tai, James. 1984 “Verbs and Times in Chinese : Vendler’s Four Categories,” Papers from the Parasession on Lexical Semantics, 289-96. Chicago Linguistic Society.
- 梁银峰 2006. <汉语动补结构的产生与演变> 学林出版社
- 沈家焯 2004 <动结式“追累”的语法语义> <语言科学> 第 3 卷第 6 期
- 熊学亮・魏薇 2014 <“NP V 累了 NP” 动结式的补语趋向解读> <外语教学理论与实践> 第 2 期
- 秋山淳 1998 「語彙概念構造と動補複合動詞」 『中国語学』 第 245 号, 32-41
- 秋山淳 2013 「非使役義を表す結果補語について」 『西南学院大学言語教育センター紀要』 第 3 号 15-19. 西南学院大学
- 井上優 2012 「テンスの有無と事象の叙述形式—日本語と中国語の対照」 『日中理論言語学の新展望 2 意味論』 1-26. くろしお出版
- 影山太郎 1996. 『動詞意味論—言語と認知の接点』 くろしお出版。
- 木村英樹 2012 『中国語文法の意味のかたち—「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究—』 研究社

木村英樹 2014. 「“指称”の機能—概念、実体および有標化の観点から—」『中国語学』第 261 号, 64-83. 日本中国語学会  
鈴木武生 2004 「中国語の結果構文の派生とアスペクト特性」『日本言語学会予稿集』第 129 回, 309-314. 富山大学出版社

辻幸夫編 2013 『新編 認知言語学キーワード事典』研究社  
山梨正明 2009 『認知構文論—文法のゲシュタルト性』大修館書店  
杨明 2013 《结果构式的认知语义研究》知识产权出版社